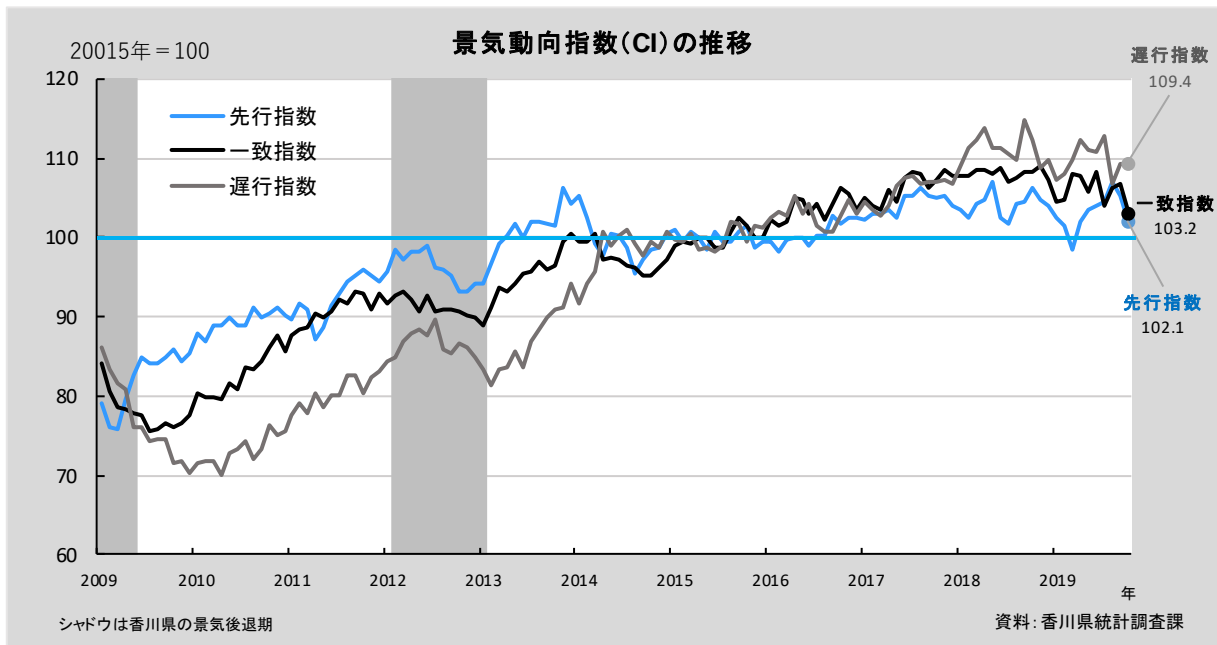


概況	景気は個人消費・住宅投資に弱めの動きもみられるものの、回復している
個人消費	消費税増税の影響もあり、持ち直しに鈍化の兆しがみられる。
住宅投資	減少傾向となっている。
公共投資	横ばい圏内で推移している。
生産活動	横ばい圏内で推移している。
雇用情勢	好調に推移している。
貿易	輸出入とも横ばい圏内の動きとなっている。
観光	好調に推移している。

景気動向指数(かがわCI) 先行指数 2カ月連続下降



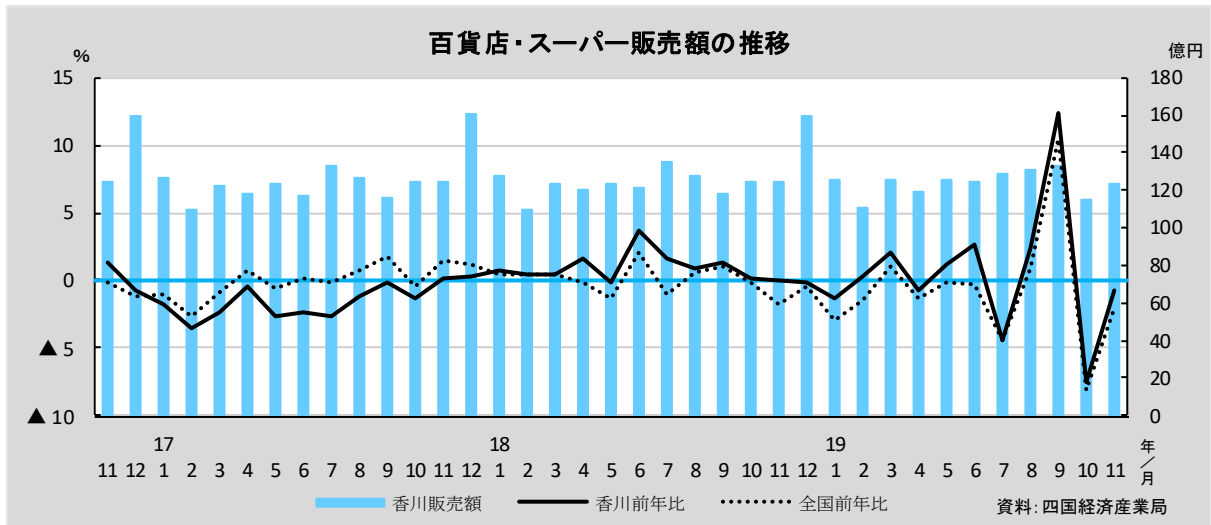
景気の現状をみると、10月のCI一致指数は103.2（前月比▲3.5ポイント）と3カ月ぶりに下降。CI先行指数は102.1（同▲3.1ポイント）と、2カ月連続で下降。CI遅行指数は109.4（同+0.0ポイント）と横ばい。

景気の先行きを示す先行系列の個別指標では、新規求人数、乗用車新車登録台数など5指標が下降に寄与したことにより、前月から3.1ポイント下降した。

	先行系列	寄与度	一致系列	寄与度	遅行系列	寄与度
採用 景気 指標	1 新規求人数	▲ 1.48	1 雇用保険受給者実人員	▲ 0.12	1 常用雇用指数	0.26
	2 乗用車新車登録台数	▲ 1.48	2 有効求人倍率	▲ 1.15	2 有効求職者数	▲ 0.54
	3 鉱工業在庫率指数	▲ 0.55	3 所定外労働時間指数	0.00	3 消費者物価指数	▲ 0.30
	4 生産財生産指数	0.19	4 鉱工業生産指数	▲ 0.22	4 家計消費支出	1.51
	5 新設住宅着工戸数	▲ 0.32	5 鉱工業出荷指数	▲ 0.29	5 鉱工業在庫指数	▲ 0.49
	6 金融機関貸出残高	▲ 0.04	6 建築着工床面積	▲ 0.65	6 法人事業税調定額	▲ 0.75
	7 消費者態度指数	0.47	7 百貨店・スーパー 既存店販売額	▲ 1.11	7 第3次産業活動指数	0.18

●百貨店・スーパー販売額

2カ月連続減少

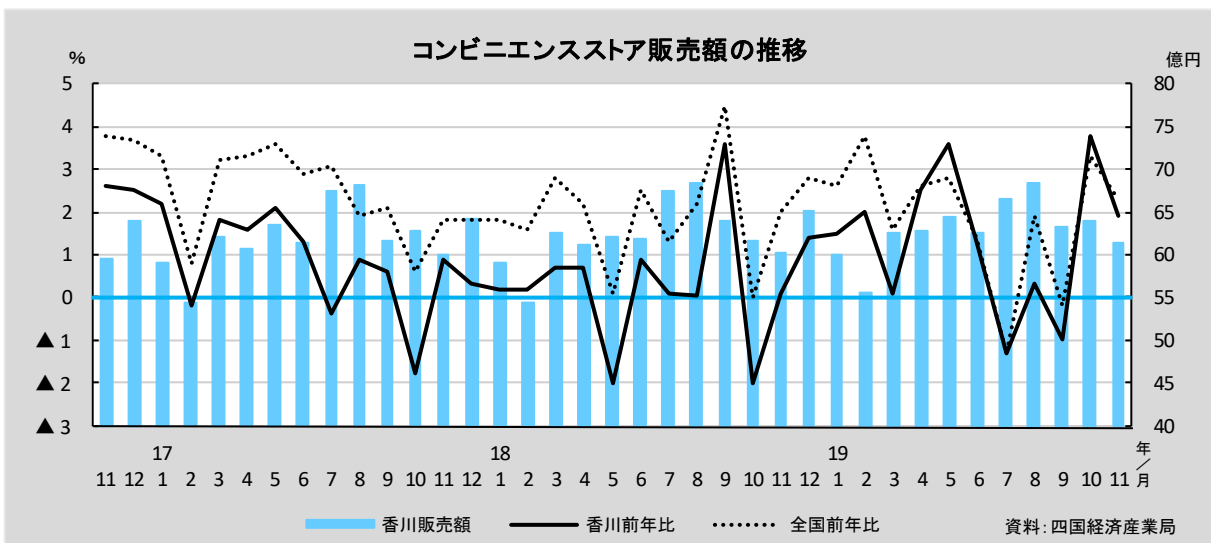


2019/11月	衣料品	身の回り品	飲食品	家具	家庭用 電気機械器具	家庭用品	その他の商品	食堂・喫茶	合計
販売額(万円)	141,678	57,216	851,933	2,632	6,146	60,979	116,373	887	1,237,844
前年同月比(%)	▲7.8	▲7.1	▲2.3	▲14.7	▲0.5	▲5.0	▲6.7	▲12.4	▲0.8

11月の百貨店・スーパー全店(64店)の販売額は123.8億円で、前年同月比▲0.8%と、消費税増税前の駆け込み需要の反動減は弱まってきたが2カ月連続で減少した。品目別にみると、全8品目中7品目が低下した。「衣料品」は暖冬で冬物衣料の動きが鈍く同▲7.8%。「その他の商品」は買いだめ需要があった日用品や化粧品が振るわず同▲6.7%。一方、軽減税率が適用された「飲食品」は同+2.3%と唯一増加した。

●コンビニエンスストア販売額

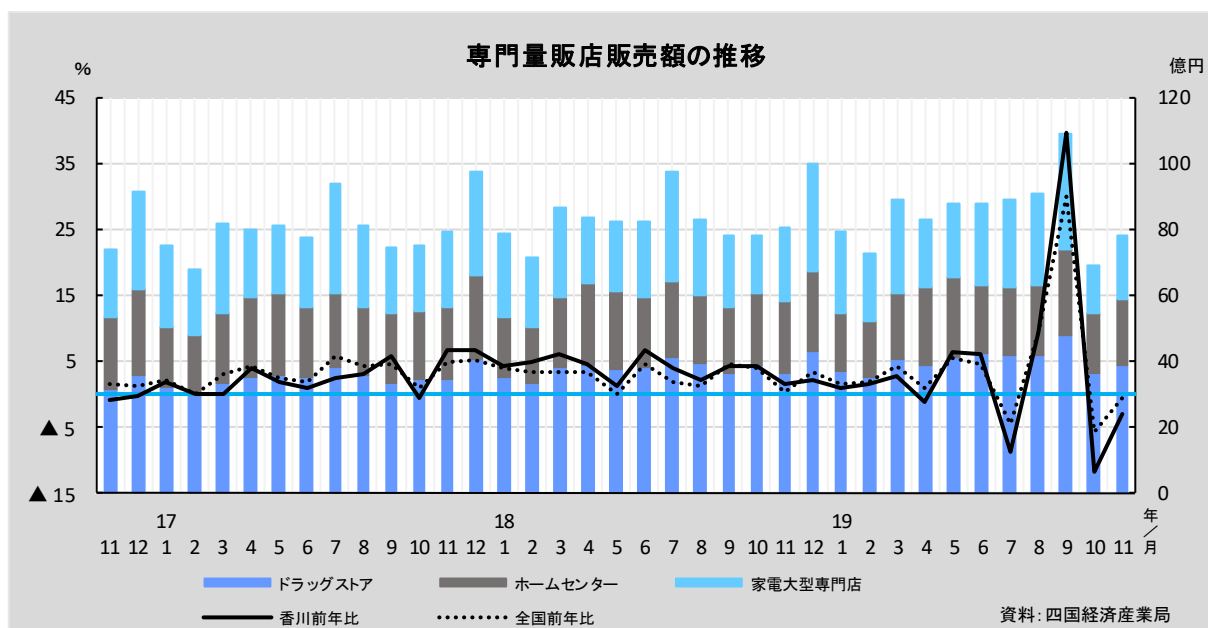
2カ月連続増加



11月のコンビニエンスストア全店(405店)の販売額は61.3億円で、前年同月比+1.9%と2カ月連続で増加した。

●専門量販店販売額

2 カ月連続減少

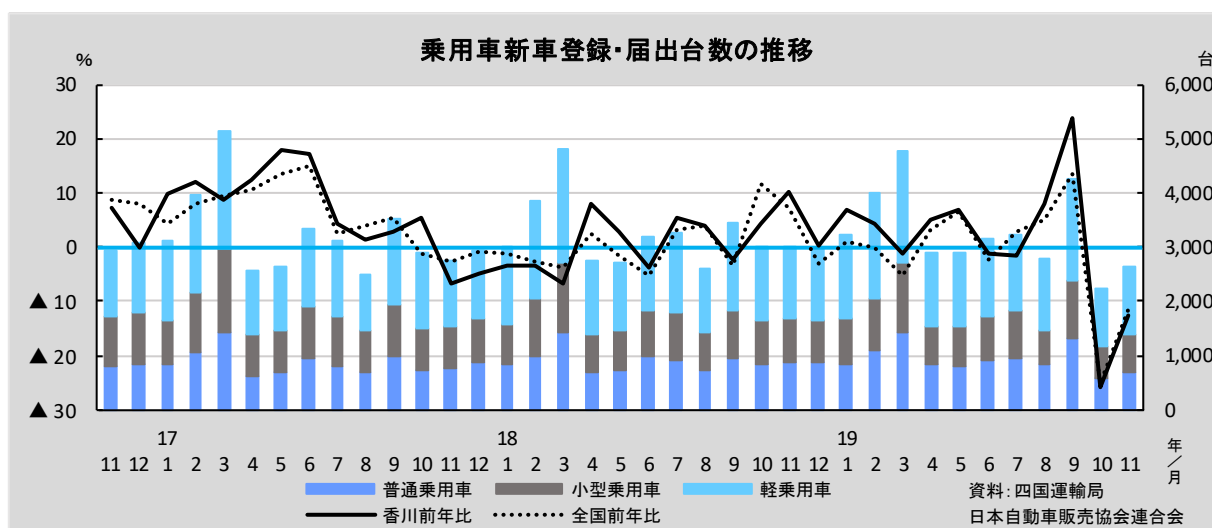


11月の専門量販店全店（200店）の販売額は78.3億円で、前年同月比▲2.9%と、2カ月連続で減少した。

業態別にみると、**家電大型専門店**（29店）の販売額は19.3億円。高い気温の影響でエアコンなどの生活家電が不振で前年同月比▲12.9%となった。医薬品が堅調だった**ドラッグストア**（129店）の販売額は39.1億円で同+6.5%、日用品が不振だった**ホームセンター**（42店）の販売額は19.9億円で同▲8.3%となった。

●乗用車新車販売台数

2 カ月連続減少



11月の乗用車（普通・小型・軽）新車販売台数は2,644台で、前年同月比▲12.5%と、2カ月連続で減少した。消費税増税に伴う駆け込み需要の反動減が続いている。

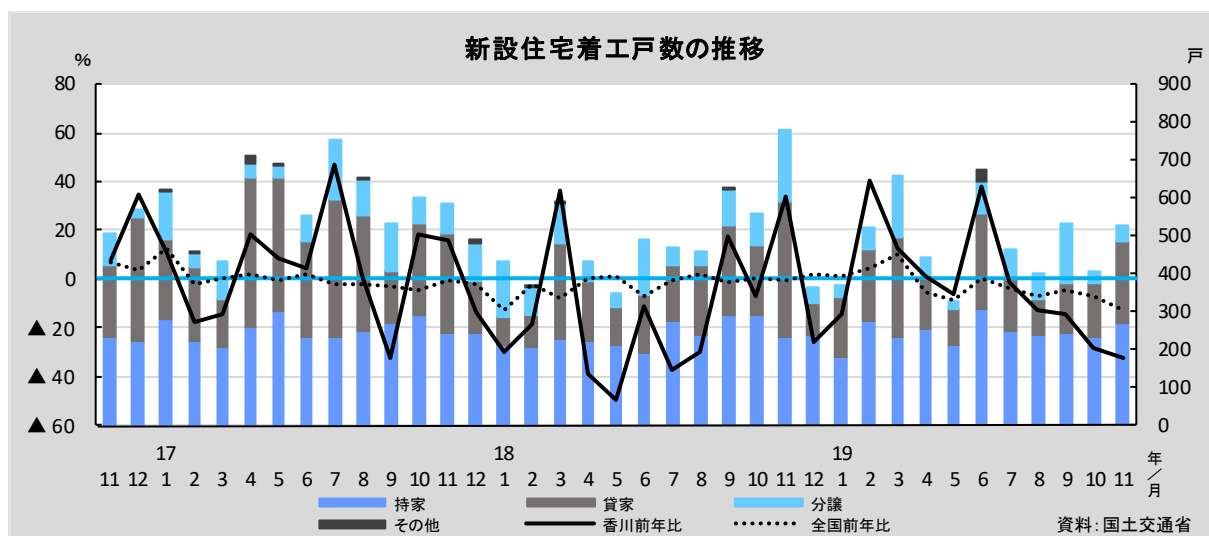
車種別にみると、普通乗用車で前年同月比▲21.8%、小型乗用車で同▲10.8%、軽乗用車で同▲7.4%となった。

住宅投資

減少傾向となっている

●新設住宅着工

5 カ月連続減少



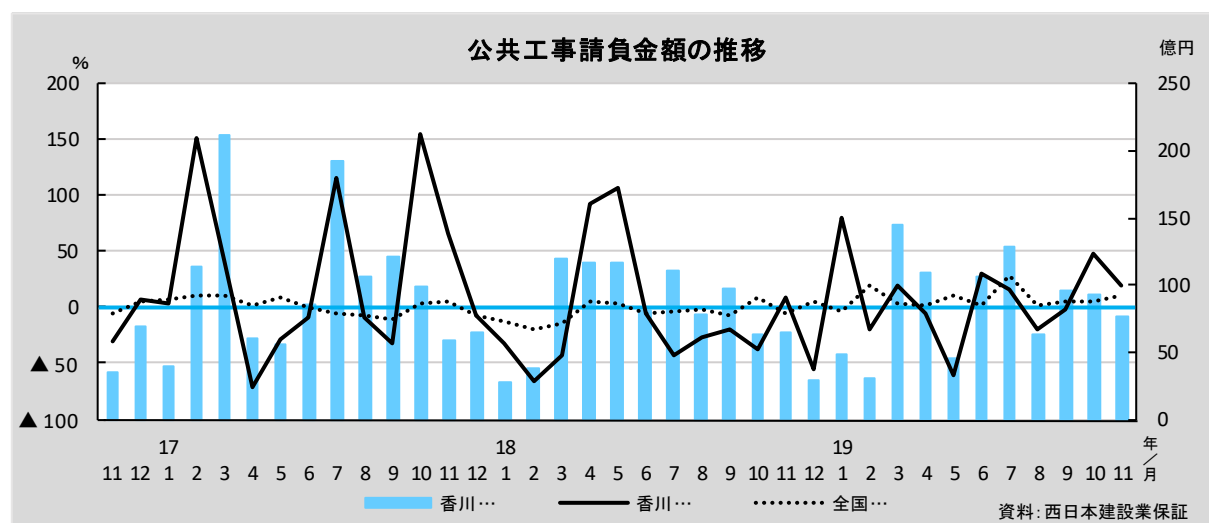
11月の新設住宅着工戸数は528戸で、前年同月比▲32.3%と、5カ月連続で減少した。利用関係別にみると、**持家**で前年同月比+14.1%、**貸家**で同▲38.4%、**分譲住宅**で同▲77.6%となった。

公共投資

横ばい圏内で推移している

●公共工事請負金額

2 カ月連続増加



11月の公共工事請負金額は76.4億円で、前年同月比+18.7%と、2カ月連続で増加した。発注者別にみると、**国・独立行政法人等**で前年同月比▲25.0%、**県**で同▲21.1%となったものの、**市町**で同+74.2%となった。

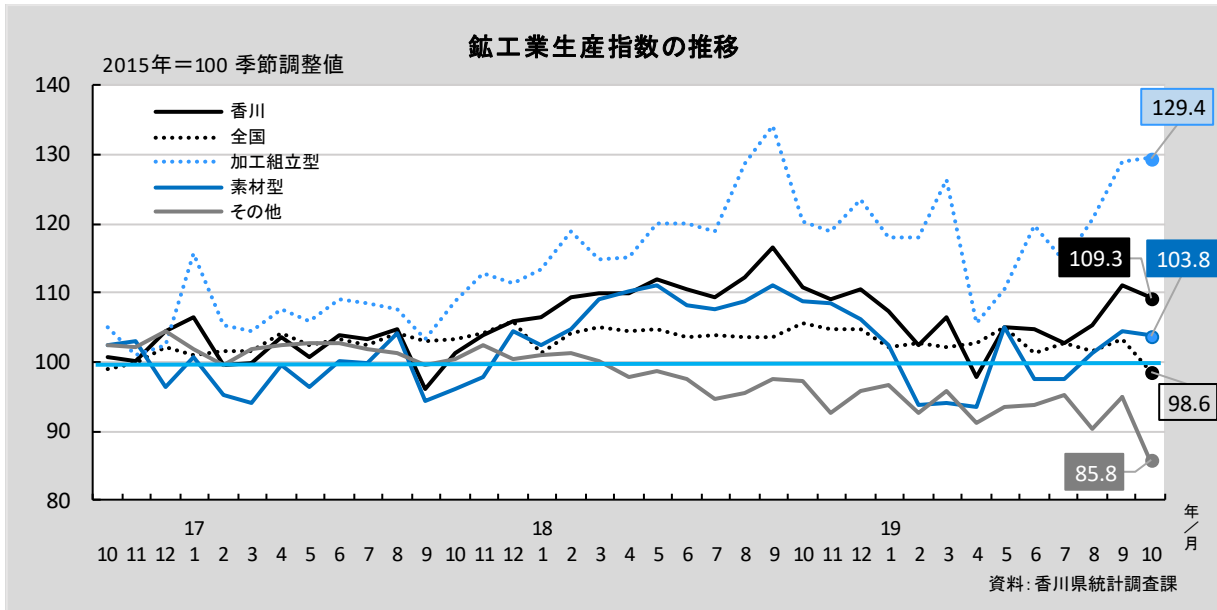
4～11月の年度累計では前年同期比1.2%減少している。

生産活動

横ばい圏内で推移している

● 鉱工業生産指数

3 カ月ぶり低下 ↓



10月の鉱工業生産指数（季節調整済指数）は109.3（前月111.0）となり、3カ月ぶりに低下した。

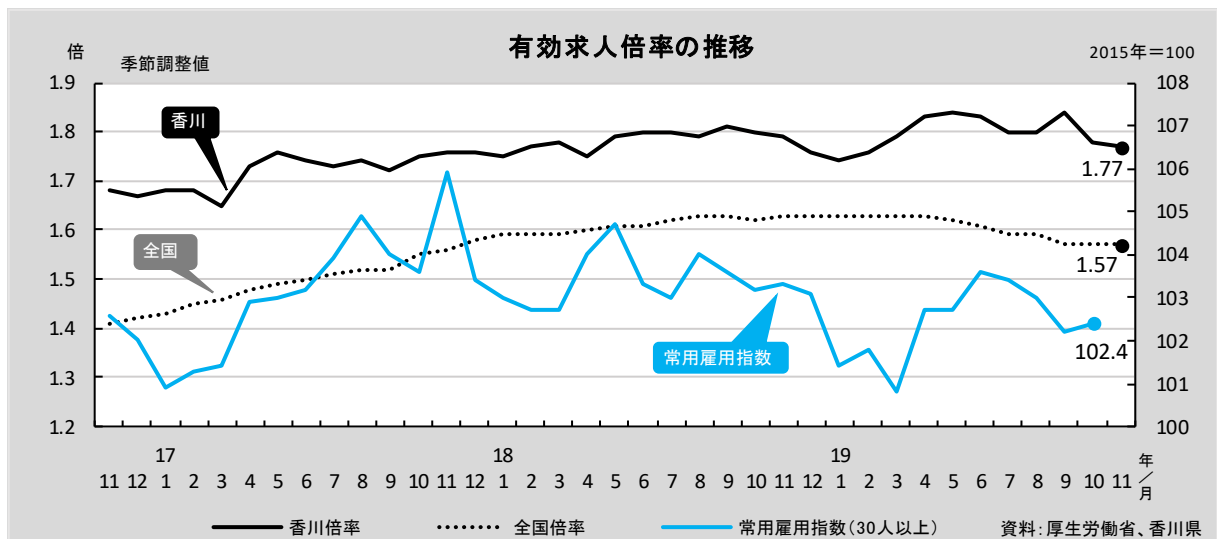
業種別では、素材型の非鉄金属工業（電気金）が前月比▲15.6%、その他業種の食品工業（食用油）が同▲10.9%となり低下に寄与した。一方、素材型の化学・石油石炭製品工業（医薬品、塩）が同+10.5%と上昇した。

雇用情勢

好調に推移している

● 有効求人倍率

2 カ月連続低下 ↓



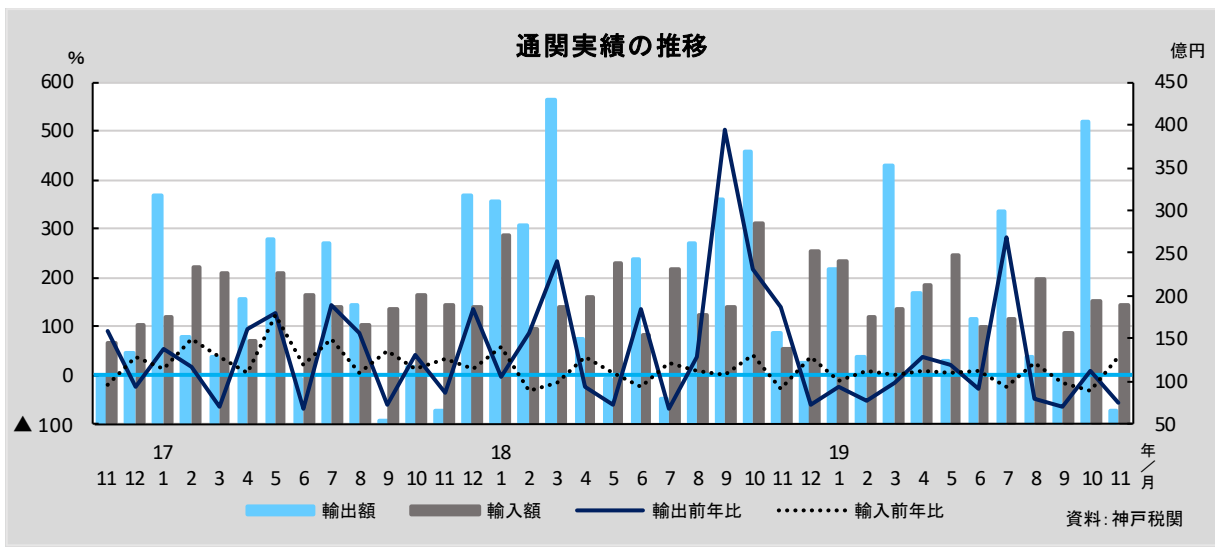
11月の有効求人倍率（季節調整値）は、1.77倍（全国9位）と前月より0.01ポイント低下した。

新規求人（原数値：前年同月比）は、生活関連サービス業・娯楽業、医療・福祉等で増加し、建設業、製造業等で減少となり、全体で4.6%減と2カ月連続で減少。

10月の常用雇用指数（事業所規模30人以上）は、102.4となり、3カ月連続で減少した。

職業別常用有効求人倍率	倍
専門・技術的職業	2.34
事務的職業	0.60
販売の職業	2.38
サービスの職業	3.82
生産工程の職業	2.59
輸送・機械運転の職業	3.19
建設・採掘の職業	5.90
運搬・清掃・包装等の職業	1.03

貿易 輸出入とも横ばい圏内の動きとなっている

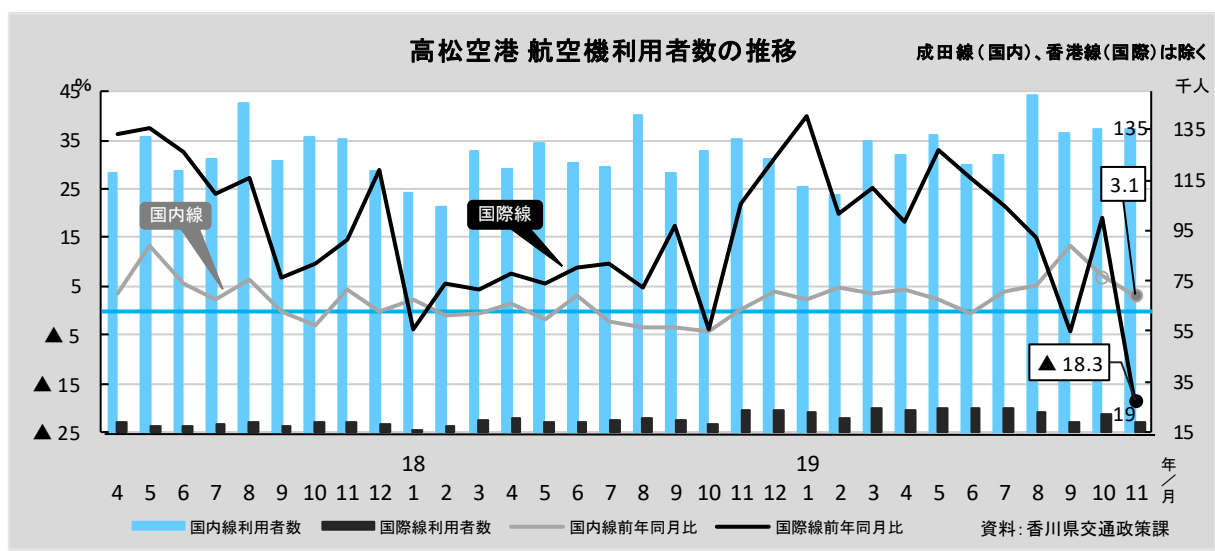


11月の通関輸出額は前年同月比▲58.3%の65.0億円、輸入額は同+36.8%の189.3億円となっており、差し引き124.3億円の入超となっている。

輸出額減の主因は、前年同月では80億円だったタンカー輸出額が全減となったためである。輸入額増の主因は、石炭輸入額が同+110.1%の78億円となったためである。

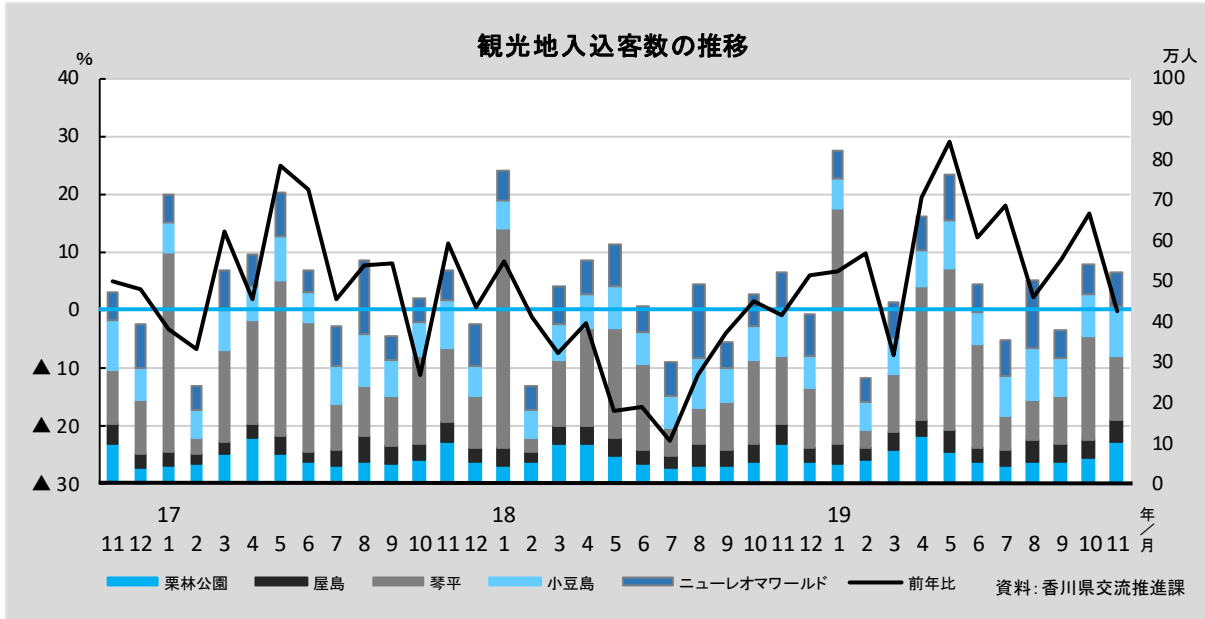
交通 好調に推移している

●高松空港旅客輸送実績



11月の航空機利用者数は、国内線(羽田・那覇線)が135,409人(前年同月比+3.1%)となり、5カ月連続で増加した。国際線(ソウル・上海・台北線)は19,119人(同▲18.3%)となり、2カ月ぶりに減少した。日韓関係の悪化を受け、毎日運航から週3便に減便したソウル線が前年同月比▲55.7%となったことが影響した。

●主要観光地入込客数

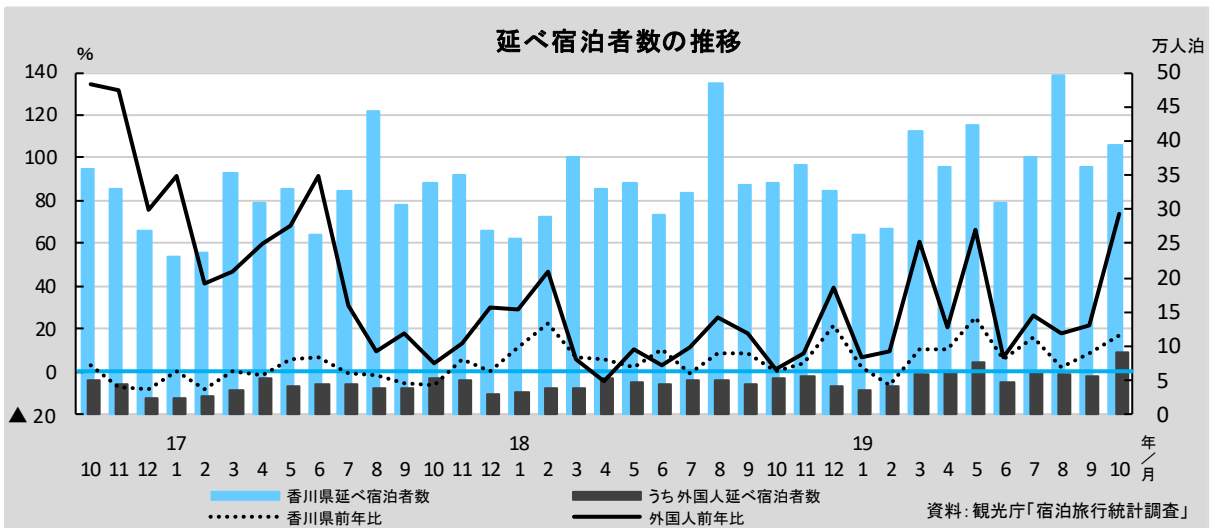


観光地入込客数		栗林公園	屋島	琴平	小豆島	ニューレオマワールド	合計						
11月(人)	前年同月比	103,158	5.1%	51,377	5.2%	161,000	▲2.4%	120,480	3.5%	85,115	▲9.3%	521,130	▲0.2%
1～11月累計(人)		733,065	10.2%	486,049	6.7%	2,475,000	17.2%	1,077,294	9.1%	963,640	▲1.0%	5,735,048	10.4%

11月の主要観光地(ニューレオマワールド含む)の入込客数は、前年同月比▲0.2%と8カ月ぶりに減少。栗林公園、屋島、小豆島は好調に推移しているが、琴平が▲2.4%、ニューレオマワールドが▲9.3%と減少した。

1～11月の累計では前年比+10.4%と高水準を維持している。

●延べ宿泊者数



10月の延べ宿泊者数は、394,100人で、前年同月比+16.9%と8カ月連続で増加した。うち、外国人延べ宿泊者数は、91,200人となり、同+73.6%と18カ月連続で増加した。